

# コミュニケーション

No. 93  
2017.3月号

CONTENTS

P2~3 園長あいさつ  
こんにちは!あかちゃん  
移動動物/訃報  
飼育動物数

【特集1】

P4~5 **大森山動物園と  
教育機関との連携**

【特集2】

P6~7 **高病原性鳥インフルエンザの  
発生について**  
動物病院から

P8~9 飼育レポート/動物病院から

P10~11 イベントレポート  
今後のイベント

P12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信

# 園長あいさつ

園長 小松 守

今年の干支は酉、動物に鳥を当てはめています。私たちが持つ一般的な鳥のイメージは、空を飛び自由に移動するものでしょう。それは今も昔も変わらないと思います。鳥が自由に大空を行き交う姿にやがて人類は飛行機を發明し、それは現代のスピード化、グローバル化にまでつながってきたとも言えます。

鳥は動物園での展示動物の核的存在で多様な生き方をお伝えするためにも欠かせません。同時に鳥は生態学的に重要な地位にある仲間も多く、種保存や生息域外保全の対象種として大切なものもいます。

秋田の動物園ではイヌワシ飼育の継続による繁殖と種保存、そして野生へも目を向けています。もう一つ、最近の個人的な鳥へのイメージは、鳥インフルエンザに直結する存在です。あくまでも個人的なものです。40数年間秋田の動物園でお世話になっていますが、これほど苦悩した経験はありませんでした。目に見えないウイルスとの戦いは、感染拡大を抑えること、動物園の鳥を守ること、様々な課題を瞬時に解決しなければならず、二度と経験したくないものです。

鳥が悪いのではなく、鳥インフルエンザウイルスも生き残り戦略として、渡りをする鳥に取り付いて拡散したかったのでしょう。地球史の中で、絶滅に向かう恐竜の仲間の一つが、「飛ぶ」という特殊能力を身に付け進化したものが鳥です。食べるため最も大切な歯さえ捨て去り、軽量化を図った鳥は強かな動物です。それを利用するウイルスはさらにその上を行きます…。今シーズンはその鳥に様々な点で注目してみたいものです。



シロフクロウのハクといっしょに

今回の「こんにちは!あかちゃん」では、8月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんを紹介します。



## コモンマーモセット

10月7日にコモンマーモセットの3つ子が生まれました。残念ながら、1頭は数日で亡くなりましたが、2頭は元気に育っています。

## 訃報 忘れないよ…



### ピューマ

ピュータ/オス(年齢不明)

2016年12月10日死亡

2011年10月18日に名古屋市東山動物園から来ました。詳しい年齢は不明ですが、20歳近いと思われます。12月に入ってから動きが悪くなり、後肢に力が入らなくなりました。腎不全と糖尿病で亡くなりました。

### アメリカビーバー

マリオ/オス(11歳)

2016年11月7日死亡

マリオは2007年3月8日に1歳で新潟市水族館マリンピア日本海からやって来ました。元気なメスのクロとチャチャに圧倒されることもありましたが、仲良く暮らしていました。



# あか か ちゃん

いんじまー！



## カンガルー

8月20日2頭、12月17日に1頭がお母さんの袋から顔を出しました。現在、アカカンガルーは16頭の大所帯になりました。カンガルーアイランドまで見に来てください。

## カピバラ

10月18日にぐりが2頭、10月27日にぐらが4頭の赤ちゃんを生みました。

ぐりとぐら、初めてのお産でしたが、上手に育てています。生まれてから1週間も経たないうちに赤ちゃんは少しずつ大人と同じ餌を口にしました。



## げんきでね！ 大森山を後にした動物 コモンマーモセット

10月24日、空と千歳が群馬サファリパークに旅立ちました。大森山の大家族を忘れないでね。



## ツキノワグマ

稔 / オス (推定16歳)

2016年12月18日死亡

稔は2001年、子グマの時に高速道路で車にはねられたため保護しました。それからは元気になり、2頭のメスとの間に3頭の子供をもうけました。また、クマの冬ごもり時の深部体温を調べる試みにも協力してもらいました。

この他にもマーコールやノドジロオマキザル、アカコンゴウインコ、フンボルトペンギン、ハクビシンなどが亡くなりました。

## カピバラ

サツキ / メス (7歳)

2017年1月3日死亡

サツキは長崎バイオパークから2009年12月4日にお姉さんのマツと一緒にやってきました。1月3日コムギとの間にできた赤ちゃんが難産となり、帝王切開を試みましたが、残念ながら母子ともに助けることができませんでした。



## 飼育動物数

2016年12月末現在

哺乳類	52種	369点
鳥類	26種	148点
爬虫類	12種	31点
両生類	2種	3点
魚類	3種	41点
無脊椎	1種	23点
合計	96種	615点

# 大森山動物園と 教育機関との連携



国際教養大学 留学生と園長

大森山動物園には、動物との出会いやふれあいを通して、レクリエーションの場を提供するという役割のほかに、自然および命の大切さを学ぶ、教育の場としての重要な役割があります。

大森山動物園が主体となって行う、ふれあい教室や職場体験などの学校向けイベントのほかに、小学校から大学までさまざまな教育機関とお互いに連携し合いながら行っている取り組みがいくつもあります。

今回は、その中から長期間継続して実施されているものや、最近始まった取り組みなどいくつかをご紹介します。

企画広報担当主席主査 吉田 淳一

## 1 長期にわたる連携

### 浜田小学校との「スタックス共同栽培」

浜田小学校と共同で行っているスタックス(飼料作物)の栽培は、1999年から始まり、昨年で18回目の開催となった長期にわたる連携の取り組みです。

この活動は、草食動物などの糞から作った「ゾウさん堆肥」を使ってスタックスを栽培し、収穫物をゾウなどに食べてもらうことで自然循環型の作物栽培と動物の飼育を児童に体験してもらうことを目的としています。

児童にとって一番の楽しみは、収穫したスタックスを直接ゾウに給餌できることだと思いますが、その前提として、実際に畑に出て堆肥の散布や種まきを行い、1m以上に成長したスタックスを鎌で収穫し、一輪車で園内に運搬するという作業をみんなで協力して行うことが必要なため、自分の体験を通じて自然循環のサイクルを学習できる取り組みです。



スタックスの運搬

## 2 新たな連携の在り方

### ①秋田公立美術大学との「大森山Arts&Zoo」

2015年度から始まり、昨年9月に2回目の開催となった「大森山Arts&Zoo」(以下、アーツ&ズー)は、動物園内をギャラリーに見立て、秋田公立美術大学(以下、美大)の学生が制作したアート作品を園内に展示するアートイベントです。

美大との連携は、その前身である秋田公立美術工芸短期大学の時代から始まっており、アーツ&ズーはそれをさらに発展させる形で開催しています。

作品の制作は美大生が中心となって行いますが、壁画の制作は、1回目と同様に美大附属高等学院の生徒と美大生が共同で行ったほか、同学院や栗田支援学校の作品も展示するなど連携の輪を広げています。

また、今回は、来園者参加型イベントとして、8月の「夜の動物園」で絵灯籠や提灯を制作するワークショップを行ったほか、来園者が自由に絵を描ける「こくばん帳」の制作やイベント期間中には「わわわ〜つながる友だち」などを開催し、1回目とは異なる新たな試みを行いました。

アーツ&ズーは、今年3回目の開催を予定しています。美大と大森山動物園がアイデアを出し合い、さらに発展したものとして開催できるようにしたいと思います。



壁画制作の様子



ゾウへのエサやり体験



イベント「わわわ～つながる友だち」

## ②国際教養大学によるモニターツアー

外国からの観光客の増加といったインバウンドの流れに対応するため、昨年11月に国際教養大学(以下、AIU)の留学生6人を招いて園内を見学してもらい、意見や感想などを聞くディスカッションを行いました。アメリカやリトアニアなどから来た留学生からは、「大森山動物園は動物との距離が近く、自然と動物、人間が調和しているようだ」という感想が聞かれました。また、AIUと動物園とのアクセスが不便なことから直通バスを運行してはどうかといった意見や、外国人観光客に対応するためAIU生によるボランティアや園内ガイドができないか、などの提案がありました。

今後も、同大との連携を深め、園内サインの充実など動物園のインバウンド対応の参考としたいと思います。



園内見学



AIU生とのディスカッション

## 3 さまざまな連携の形

地元の学校との連携では、栗田支援学校が、長年にわたり生徒による園内の花壇整備を行っているほか、ここで紹介した「スタックス共同栽培」や「大森山Arts&Zoo」にも参加して

います。

日新小学校は全校児童が徒歩で来園し、各学年ごとに学習テーマを決めてオリエンテーリングやクイズを行う「わくわくフェスタ」を開催し、通常の遠足とは異なる「学習の場」として動物園を活用し、園の職員もフェスタの開催に協力しました。

また、秋田市外の学校では、大館市立南小学校の児童が地域と協力して栽培したさつまいもを福祉施設や動物園などに寄贈する「さつまいも夢プロジェクト」を通して動物園と交流しています。(11ページ参照)

その他、市の教育機関である自然科学学習館との共催で、大森山公園や動物園の自然に親しむ「自然観察会」や、さまざまなテーマで子どもの科学的好奇心を刺激する「どうぶつサイエンス」などのイベントを定期的に行っています。(10ページ参照)



栗田支援学校による花壇整備



日新小学校わくわくフェスタ

## 4 今後の連携について

大森山動物園では、今後もこれまで進めてきた教育機関との協力関係を深めながら、新たな連携や、多様な連携の在り方を検討・実践していくことで、教育の場としての充実を図り、動物園のさらなる魅力アップにもつなげていきたいと思っています。



アート作品「こくばん帳」

# ～高病原性鳥インフルエンザの

## 1 鳥インフルエンザの発生

2016年11月15日、大森山動物園で高病原性鳥インフルエンザが発生しました。

動物園施設内の飼育鳥類から高病原性鳥インフルエンザが発生した例は、国内では初めてのことで、その対応は大きな不安の連続でした。

感染した鳥は園内沼の護岸工事を行うため、10月19日に沼から動物病院の外ケージに移動したコクチョウ3羽とオオハクチョウ1羽のうちのコクチョウ1羽でした。毎年11月1日から翌年3月31日まで鳥インフルエンザ警戒態勢の下、観察や踏込消毒の強化をしていた矢先のことでした。

その後、11月17日には同室2羽目のコクチョウが死亡し、簡易検査で陽性となったため、これまで死亡したコクチョウと同じ沼で同居していた水鳥等が処分されました。

さらに11月23日、病院入院棟内にいたシロフクロウ3羽への感染も見られました。



動物病院(森のびょういん)



動物病院外ケージ

## 2 現場での対応

感染拡大防止と来園者の安全のため、発生翌日の11月16日から動物園を休園し、1月・2月開催の「雪の動物園」も中止にしました。

園内への車両の出入りを限定し、入口へ消石灰散布帯の設置やタイヤの消毒、入退園する人の記録や踏込槽での消毒など厳し



入園車両の消毒



高圧洗浄機による消毒

い防疫態勢を敷きました。

園内の鳥類飼育施設や動物病院の消毒も、高圧洗浄による消毒薬噴霧を2日おきに行いました。

鳥類飼育施設の出入口には内と外両方に踏込消毒槽を設置し、担当者の動線を記録しました。動物の健康状態については、担当者や獣医師で異なる時間での、ダブルチェックを実施しました。

発生は入院棟内に限局していたため、入院棟からウイルスを持ち出さないことに細心の注意を払いました。専門家の助言指導に基づいて作業手順を決め、入院棟にいる動物の管理に当たる獣医師を専任し、入院棟入室の際には防護服とゴム手袋を二重に着用する等厳重にしました。

無線機と交換用の防護服、ポリ袋に小分けにした動物の餌を持ち込みます。作業は部屋毎に長靴を履き替え、1部屋ずつ作業が終わるたびに外側の防護服と手袋を交換します。それから動物の状態について事務所に無線で連絡を入れます。ウイルスの飛散防止のため、部屋の水洗いは止め、餌等の容器の中身にもウイルスがいる前提で、餌容器と残餌は消毒薬を入れて一晩置き、中身の廃棄と容器水洗など感染対策を徹底しました。これを



動物病院内の様子

繰り返し、3部屋全ての作業が終わると全ての防護服等を脱ぎ、無線機と全身に消毒薬を噴霧して入院棟を後にします。これで終わりではありません。すぐにシャワーを浴び、作業服を着替えます。感染の疑いが考えられる作業をするたびに必ずシャワーを浴びて作業服の交換をすることにしていたため、1日に3回シャワーを浴びることもありました。

## 3 嵐が過ぎ去るのを待つ日々

消毒作業を継続し、入院棟を含む園内の鳥類の観察に力を注ぎました。鳥におけるウイルスの潜伏期間は7～10日間と考えられているため、その間は精神的に辛い日々でした。飼育鳥

# 発生について～

飼育展示担当主席主査 三浦 匡哉

類にいつもと少しでも異なる様子が観察されると、「もしかして再発か?」とざわつきます。職員みんなが疑心暗鬼になっていました。そこで、観察するポイントを絞り、経過を見ているうちに職員は落ち着きを取り戻しました。

入院棟の中にいた、イヌワシ、タンチョウ、マナヅルについて1週間ごとの簡易検査と感染確認検査用の材料採取が4週間ほど続きました。1羽ずつの保定と、検査や採材が人と鳥へ与える負担は相当なものでした。毎回陰性の結果が出るまで、とても長い時間に思えました。

感染拡大防止のためとはいえ、餌の入手が難しくなったほか、入院棟が感染源であったため、動物の治療や検査が制限され病院機能が低下するなど、一時現場が混乱しました。

## 4 再出発に向けて

鳥インフルエンザの発生から、大森山動物園は環境省から鳥インフルエンザの野鳥監視重点区域に指定されました。11月23日の最終発生から45日間新たな感染が無いことから、1月7日24時をもって指定は解除されました。

失われた様々な機能の回復、鳥類展示施設の再開など、鳥インフルエンザの再発防止対策など課題は山積みですが、3月18日の通常開園を元気に迎えられるように頑張りたいと思います。

## 5 まとめ

鳥インフルエンザは全国的、いや世界的に猛威を振るい、養鶏業界や動物園関係等に大きな影響を与えました。目に見えないウイルスが相手なだけに、その対応に苦慮することがたくさんあります。

動物園は希少種の保全施設でもありますが、展示施設でもあります。感染源となる野鳥等との接触を完全に防ぐことは現実的に不可能に近く、展示と飼育の両立、希少鳥類を展示しながらどうやって守っていくか、鳥インフルエンザの大きな課題です。

動物病院から

鳥海さん  
ガンバレ!!

獣医師 川本 朋代

動物病院で鳥インフルエンザが発生した時、入院棟内にいた鳥はマナヅル、タンチョウ、ニホンイヌワシの3羽でした。鳥インフルエンザウイルスは非常に感染力が強く、同じ施設の中にいた3羽も危険にさらされていました。私が一番心配したのは、現在、日本最高齢46歳のおじいちゃんイヌワシ「鳥海」です。高齢のため目はほとんど見えず、飛ぶこともできません。免疫力も弱く、もしかしたら次は…と考えると毎日不安な気持ちで無事を祈っていました。そんなこちらの気持ちを知ってか知らずか、鳥海は元気よく餌を食べ、その姿を見てこちらも励まされました。

ある朝、いつものように病院内に入ると鳥海がうすくまった状態になっていて、あわてて確認すると、足腰が弱くなっていたためだと分かりました。鳥海は感染防止のため、できるだけ外部の空気とは触れないようシートをかぶせた狭い空間で飼育していた影響でうまく立てなくなっていたのです。このままでは立てなくなると思い、ウイルスの潜伏期間が過ぎていたことから、鳥海を飼育ケージから出すことにしました。ケージから出した当初、鳥海は寄り掛かる場所が無くなり、自分で立つことができずバランスを崩して倒れてしまうということが続きました。

また、ストレスからか、ペリット(※)を5日間出せず、餌を吐き戻し食欲が落ちてしまうこともありました。ビタミン剤や消化薬を餌に混ぜるなどこまめなケアに努めると、少しずつ回復し足腰にふんばりがきくようになり倒れることが少なくなりました。食欲も戻りペリットも吐けるようになりました。

鳥海は今日も元気に餌を食べてくれています。これからもずっと長生きしてほしいと願っています。(2017.1.12)

※多くの猛禽類は、骨・羽毛・歯などの消化できない部分を一度胃にため、ある程度たまとペリットという塊として吐き出します。



イヌワシ「鳥海」

## 飼育レポート1

### トナカイの誕生と親子初遊泳

飼育展示担当 柴田 典弘

サクラ(メス11歳)が出産予定期を迎えた2016年6月初め。いつ産まれるかと毎日朝早くから確認していましたが、待っているとなかなか産まれないもの。6月14日、この日も大きな変化や兆候もなく、そろそろキリンの収容準備に向かおうとした15時過ぎでした。右腹部を下に座って休んでいたサクラが、一旦立ち上がり、



生後4日の元気

直ぐに左腹部を下に座り直したのです。この行動こそ、ずっと待っていた出産兆候の一つでした。その直後、大きく深い呼吸に変化。さらに5分後には呼吸が荒く、早くなりました。尾がピンと真上に向き、力む様子も見られたので、まさに祈るような思いで観察と記録を続けました。それから15分後、赤ちゃんの前肢が出たのを確認、15時34分無事に出産となりました。

比較的安産でしたが、赤ちゃんはなかなか立ち上がれず、17時57分に介添えた上で立たせ、サクラの乳を絞り初乳を飲ませました。その日のうちに立ち上がれるようになりましたが、体力がなく直ぐに座ってしまうため授乳確認ができず、数日間人工乳も併用して成育を見守りました。約1週間で状態は安定しましたが、同時進行で暑さとの戦いが始まっていました。こまめに体温を測定し40℃を超えると熱中症対策として緊急冷却処置を行うなど、細心の注意を払っての飼育管理が続きました。

8月13日の午後、「元気」と命名された赤ちゃんは、避暑を目的としてサクラと一緒に園内の塩曳瀧へお散歩。泳ぎが大好きなサクラは昨年は放牧直後から泳いでいましたが、この日は不思議と泳ごうとせず青草を食べていました。約15分後サクラが突然向きを変え入水すると元気も躊躇することなく水に入りました。初放



親子で塩曳瀧を遊泳

牧で初親子遊泳へと発展しました。トナカイが元気に秋田で暮らせるように、今年も最善を尽くします。

## 飼育レポート2

### カピバラの同居と繁殖

飼育展示担当 小川 裕子

野生のカピバラは南米の熱帯地域に生息しており、10~30頭位の群れで生活しています。群れのリーダーはオスです。オスには目と鼻の間にモリージョという黒い楕円形の大きなコブがあります。

大森山にはメス4頭とオス1頭の5頭のカピバラがいます。オスのコムギは、埼玉県動物園から2014年に仲間になりましたが、体も小さく、メスに受け入れられなかった様です。またメス同士も相性が悪かったので長い間個別飼育をしていました。



鼻のモリージョが目立ってきたコムギ

ここで動物園用語を紹介します。柵越しに飼育し、お互いに慣れてもらう事を「お見合い」、柵を取り払って同じ空間に入れる事を「同居」と言います。私は飼育員になって2年目ですが、この動物園用語が新鮮で驚きでした。

コムギとメス達は、長い時間をかけてお見合いをしてきました。カピバラはとても鋭い前歯を持っているため、同居の時にケンカして皮膚が裂けてしまうこともありますが、繁殖期は同居が成功しやすいので、5月から開始しました。カピバラ同士がケンカを始めたならサスマタや水をかけて離さなければなりません。他の飼育員にも協力してもらい、オスとメス1頭ずつ5分間から同居を始めたところ友好的に終わり安心しました。個体を変えながら同居訓練を全頭で行い、約2週間で1つの群れになる事ができました。

カピバラの妊娠期間は約5か月です。群れになった5月下旬から5か月後の10月下旬に2頭のメスが6等の



ぐらと赤ちゃんたち

子を産み、今では10頭の大所帯になりました。コムギは大きなモリージョもでき、りっぱなリーダーに成長しました。



## レッサーパンダの成長日誌

飼育展示担当 藤原 直樹

2016年4月からレッサーパンダの担当になり、前担当から「ゆりが妊娠している」と申し送りがありました。出産予定が近づくとつれ、心構えはしてはいたが



直接給餌中のケンタ

いろいろ不安になってきました。7月13日朝、産箱内のモニターにゆりのおなかの上に赤ちゃん2頭の姿が映っていました。「やったー！」と叫びたい気持ちを我慢し、無事に初産のゆりが育児できるよう静かな環境維持に努めました。

2頭は体毛が濃い・淡いとはっきりして識別しやすく飼育員孝行です。モニターで確認すると、ゆりは物音にも動じず、しっかり2頭に授乳しています。出産10日後には、ゆりが産箱から出ている時間が長くなってきました。夏の暑さと育児疲れで、寝室の床でうたた寝している様子も見られました。

15日齢の7月28日、初めての体重測定を行い、体毛の濃い方が260g、淡い方が280gとほぼ順調な成長でした。

42日齢の体重測定では、濃い方が660g、淡い方が760gと2頭の体重差は100gになっていました。モニターを確認すると淡い方が乳が多く出る乳房を独占しているのがわかりました。

50日齢の体重測定では、濃い方は760g、淡い方が880gと体重差が広がりました。

56日齢に雌雄判別を実施し濃い方がオス、淡い方がメスと判明し、その後の命名式でオスは「ケンタ」、メスは「小百合」と名付けられました。



ケンタ(左)と小百合

ケンタの体重が思うように増えないため、11月15日から、パンダミルクをスプーン摺り切り1杯、リンゴ1/4個とバナナ50gのすりおろしを50ccの湯で混ぜ合わせた流動食20mlを1日4回飼育員が直接給餌することにしました。10日後には、1回あたり25mlに増やし順調に体重増加がみられたため1月2日で給餌を中止しました。1月7日現在、ケンタ2.18kg、小百合2.54kgと差はあるものの食欲旺盛でゆりの餌まで食べるほどになりました。

春の開園時には大きく成長したケンタと小百合に会いに来てくださいね。

## 動物病院から

### ハズバンタリー トレーニングによる キリンの血圧測定

獣医師 小川 裕子



リンリンの血圧測定の様子

動物の診療には、保定<sup>ほてい</sup>といい、人間が動物を動かさないように押さえる事が重要です。犬猫病院で勤務医をやっていた頃「診療で大事なのは保定9割、技術1割」とよく院長に言われました。犬や猫の診療では、保定方法が確立されていますが、動物園にいる大型動物にはこの保定方法は通用しません。そこで動物園では「ハズバンタリートレーニング」といって、イルカの調教や犬の訓練と同様に、人間が指示した行動ができれば、餌を与えるという事を繰り返すトレーニングを行っています。

大森山動物園はキリンのハズバンタリートレーニングが有名で、キリン担当の飼育員は、日本中の動物園でこの技術を教えています。このトレーニングは獣医師にとっては、キリンの採血や静脈注射、削蹄をやる時に役に立ち、最近では血圧測定も行っています。キリンは頭と心臓の位置の高低差が大きい動物です。心臓から頭まで血液を送る為には、かなりの血圧が必要になると推察していました。現在、キリンの血圧は麻酔下やキリンを押さえた状態での血圧値が報告されていますが、平常時の血圧は報告されていません。そこで当園のキリン2頭で血圧を測定した結果、収縮期血圧が約230mmHg、拡張期血圧が約160mmHgと人間と比べかなり高い血圧ですが、報告されていた測定値や推察していた値より低い測定値でした。

動物園の治療では、吹き矢を使って注射をする事が多いのですが、キリンに吹き矢を打つと驚いて走り回り、怪我をしてしまう事があります。当園で飼育しているリンリンが鼓張症<sup>こちやうしょう</sup>という胃内にガスが溜まる病気になった時、ハズバンタリートレーニングのおかげですぐに薬を静脈注射でき、回復も早かった事がありました。日頃の訓練の賜物ですね。

# イベント レポート event report



## チンパンジーの敬老会

▶9月18日(日)

主役はオスのボンタ44歳(人間で約66歳)とメスのジェーン49歳(人間で約74歳)の2頭。まだまだ元気な2頭ですが年を取って、少しずつ体力が落ち、若い頃のように体が動かなくなってきました。ボンタはジャンプの高さも若い頃の半分以下になり、少しでも寒い時は外の様子を見て寝室にUターン、ジェーンも寒いと外に行くのを嫌がり毛布を与えると渋々出て行きます。

チンパンジーの敬老会では、そんな2頭にいつまでも長生きしてもらいたいとの願いを込めて飼育員がご馳走を作り、お客様と一緒にお祝いをしています。



ご馳走を頬張るボンタ(左)とジェーン

## 移動動物園 in秋田県動物愛護フェスティバル

▶9月22日(木・祝)

フェスティバル当日は、暑すぎず寒すぎずちょうどいい曇りの日でした。遊学館(秋田市上北手)で開催された動物愛護フェスティバルに当園から参加したペンギンとヒヨコ達、そして、飼い主さんと来場した興奮状態のイヌやネコにとって、過ごしやすい気候という意味の“ちょうどいい”ということです。他イベントと合同開催だったため30分間と短い開催でしたが、約150人の動物を愛する秋田県民と交流することができ、初参加のイベントも無事に終了しました。



オモリンと秋田県のゆるキャラたち



来場者とヒヨコとのふれあい

## 自然観察会

▶9月22日(木・祝)

自然科学学習館と共催で大森山公園の自然観察会を実施しました。動物園から大森山公園グリーン広場まで散策しながら身近な生き物や秋の植物を観察し、フィールドゲームを楽しみました。午後からは、公園で拾ったドングリを動物園のツキノワグマにあげたり木の実を使った工作や葉脈標本を利用したしおり作りなどで盛り上がりました。



塩曳淵に生息している生物の説明



ツキノワグマ前での記念撮影

## 水生生物調査

▶10月1日(土)

市民ボランティアと共に地引き網や定置網を使用して、園内にある天然沼の「塩曳淵」で水生生物調査を実施しました。秋田水生生物保全協会の皆さんに協力してもらい、ゼニタナゴ2匹、シナイモツゴ20匹、キタノアカヒレタビラ35匹の希少魚類を採捕できました。久しぶりにゼニタナゴを採捕することができ、参加者には動物園での保全活動が目に見えて伝わったと思います。また、当日は「明德館ボランティアの会」おはなしの会のみなさんによる塩曳淵の紙芝居も披露され、子供達もお話しに聞き入っていました。



水生生物調査の様子



明德館ボランティアの会による紙芝居

## レッサーパンダ命名式

▶10月30日(日)

7月13日生まれの双子のレッサーパンダ命名式では、お客様の投票によって選ばれた愛称「ケンタ」と「小百合」を、命名者である小学3年生の男の子に発表してもらいました。外展示場で母親の「ゆり」とお散歩するケンタと小百合のヨチヨチ歩きは、まさに犯罪級のかわいらしさ。終始、お客様のハートを鷲づかみでした!!

その後、ケンタは体重が伸び悩みましたが、ミルクとフルーツの流動食で、標準体重に近づきつつあり、最近、高い木に登ったり駆けっこしたり小百合と一緒に元気よく遊んでいます。



お披露目会の様子



じゃれあう小百合(左)とケンタ



## 大館市立南小学校からの贈り物 (さつまいもプロジェクト)

▶10月24日(月)



さつまいも贈呈式の様子

今年も3回に分け、大館市立南小学校の皆様から大量のさつまいもをいただきました。同小学校の皆さんが、丁寧に育てたさつまいもは、年を重ねる毎に立派に成長し、1本1本がとても大きく美味しそうで、動物も大喜びで食べていました。動物園の台所もたいへん助かりました。来年も楽しみにしています。

本当にありがとうございました。



## 秋の動物ふれあいフェスティバル

▶10月9日(日)

恒例となった「秋の動物ふれあいフェスティバル」を開催しました。人気の動物パレードや記念撮影会では、動物とふれあって写真を撮るたくさんのお客様で賑わいました。このほか、ミルヴェンジャー7や動物たちが登場した動物ふれあいクイズ大会や、猛獣たちの寝室や飼育員の通路などを見学できる猛獣舎の裏側探検などの特別イベントに、たくさんのお客様にご参加いただきました。



動物ふれあいクイズ大会



動物パレード

## どうぶつサイエンス

▶11月13日(日)

自然科学学習館と共催で「鳥のひみつを探ろう」と題して、園内をまわりながら様々な鳥の特徴について学ぶ、どうぶつサイエンスを実施しました。当日はあいにくの悪天候でしたが、ミルヴェ館にイヌワシやシロフクロウなどの鳥が集まり、参加者は色々な鳥を間近に観察でき、興味を持ってくれた様子でした。また、今年の干支にちなんで、年賀状用に好きな鳥と一緒に写真を撮るなどしてもらいました。



鳥の特徴について学ぶ参加者たち

## みんなの写真展

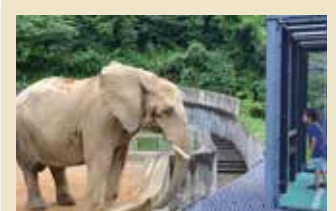
▶9月10日(土)~10月10日(月・祝)

大森山動物園を盛り上げようと、新イベント「みんなの写真展」を開催しました。

動物だけを撮影した「動物部門」と人物や風景などを撮影した「園内スナップ部門」を設け、2部門合わせて41作品の応募がありました。来園者による人気投票の結果、450票の投票をいただき、動物部門では村上健さんの「スマイル ケンシン♪」が、園内スナップ部門では鈴木大佐さんの「恐る恐る、そーっと…」がそれぞれ1位に選ばれました。ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。



動物部門「スマイル ケンシン♪」



園内スナップ部門「恐る恐る、そーっと…」



予告

## 通常開園スタート

▶2017年3月18日(土)

※2017年11月30日(木)まで無休

8月1日	<b>トナカイ</b> <b>アフリカテガミヤマアラシ</b> <b>フラミンゴ</b>	雁来♀ センサー挿入部が化膿し洗浄消毒。 ワヤ♀ 右目の瞳孔部分の白濁強く、突出してきているように見える。 チリーAペア 産卵したが、破卵。
8月4日	<b>フラミンゴ</b>	ヨーロッパヒナ、土を啄んで食べていた。
8月5日	<b>ゾウ</b>	だいすけ♀ 左牙先端折れる。
8月7日	<b>トナカイ</b>	暑さ対策のミスト24時間稼働。
8月8日	<b>キリン</b>	リンリン♀ サブパッドで前肢を台に載せるトレーニング。
8月9日	<b>ゼニタナゴ</b>	ピジターセンター水槽：川魚用の餌で給餌開始。
8月10日	<b>キリン</b>	カンタ♂ 血圧測定、リンリン♀ 採血。
8月11日	<b>シロマダラ</b> <b>レッサーパンダ</b>	夜間展示開始。 仔 体重測定 2頭とも開眼した。
8月12日	<b>キリン</b>	カンタ♂ 直腸検査トレーニング。
8月13日	<b>トナカイ</b>	元気♂ F・ケージ初遊泳。
8月14日	<b>ゾウ</b>	交尾行動あり。
8月16日	<b>キリン</b>	リンリン♀ 血圧測定実施。
8月17日	<b>サンショクキムネオハシ</b> <b>チンパンジー</b>	同居訓練。 夜間園の影響で疲れが見える。
8月18日	<b>ポリビアリスザル</b> <b>ワオキツネザル</b>	仔 母親の背中から降りて1頭で行動することあり。 睾丸の皮が裂け治療。
8月19日	<b>ニホンイヌワシ</b>	月子♀ 予備舎へ移動。
8月21日	<b>アカコンゴウインコ</b>	巣箱の中に卵・雛無し。無精卵と思われる。
8月23日	<b>ケツメリクガメ</b>	右黄4 陰莖脱おおよび排便障害による腸内内容物過多のため入院。
8月24日	<b>ライオン</b> <b>インドクジャク</b>	ロアー♂とトモ♀お見合い中フェンス越しに激しく威嚇あり。 追い回し攻撃。クジャクの園再開
8月30日	<b>カリフォルニアアシカ</b>	マヤ♀ 右膝に腫瘍出現。食欲低下。
8月31日	<b>サル山</b>	ジャンボスイカ1個給餌。
9月3日	<b>カリフォルニアアシカ</b>	マヤ♀ 右前肢の腫脹箇所、破れて中身が全部排出された様子。
9月6日	<b>フラミンゴ</b>	ヨーロッパペア7個擬卵に交換。
9月13日	<b>トナカイ</b>	ルドルフ♂ 角の皮がほとんど剥けていた。発情がきていると思われる。
9月16日	<b>レッサーパンダ</b>	仔 笹を食べる真似をしていた。
9月18日	<b>フラミンゴ</b>	今年度の繁殖終了。
9月20日	<b>トナカイ</b>	元気♂ 右角枯角に変化。
9月22日	<b>シバヤギ</b>	コハク去勢♂ 擦過傷保護のためボロシャツ着用。

9月22日	<b>ライオン</b>	トモ♀ 通路下でうなり声を出しながらゴロゴロして発情の兆候あり。
9月26日	<b>アムールトラ</b>	ヒロシ♂ 朝一排尿している時間長かった(約4分)。
9月29日	<b>キョン</b>	ソケン♀ 一部が枯角。
9月30日	<b>アカカンガルー</b> <b>プレーリードッグ</b>	子2頭 展示場内を疾走し、途中で衝突した。怪我はない様子。 ロッキー♂が乗作り。
10月2日	<b>カピバラ</b>	ぐり♀ 胎動(?)確認。
10月6日	<b>アカカンガルー</b> <b>コモンマーモセット</b> <b>ゾウ</b>	クミコ♀ X線検査結果、骨折確認。ギブス処置。 もも♀ 腹部の膨らみ目立つ。 だいすけ♀ 体調不良経過観察。パレット給餌再開。
10月7日	<b>プレーリードッグ</b>	夜間室温が15℃になったため寢室シートのアクリル板設置。
10月8日	<b>ふれあい事務所・カメハウス</b>	ストープ試運転。
10月9日	<b>ゼニタナゴ</b> <b>カナダヤマアラシ</b>	ひょうたん橋水槽のドブガイにゼニタナゴの産卵確認。 モスク♀ 体重測定。
10月10日	<b>アカカンガルー</b> <b>ホンドテン</b>	クミコ♀ 骨折修復手術実施。お腹に全長1cm程度の赤ちゃん確認。 冬毛に変わってきている。
10月17日	<b>トナカイ</b>	ルドルフ♂と雁来♀を同居。
10月19日	<b>鳥っこの水辺</b>	鳥類移動。
10月27日	<b>キリン</b>	リンリン♀削蹄。カンタ♂蹄の伸び気になる。
10月30日	<b>トナカイ</b>	ルドルフ♂とサクラ♀を同居。
10月31日	<b>日本産両生爬虫類</b>	冬眠のため展示終了。
11月6日	<b>ゾウ</b>	足ケア用の新しい台に慣らし始める。
11月7日	<b>サル山</b> <b>インドホシガメ</b>	繁殖個体マイクロチップ埋込。11月8日に個体識別作業実施。 交尾確認。 ペットヒーターを敷く。
11月8日	<b>カピバラ</b>	子供個体識別、性別判定実施。
11月10日	<b>アカカンガルー</b>	クミコ♀ 骨折部の骨増生無し。育児囊の仔、体長5.5cm。
11月20日	<b>タンチョウ</b>	ペア 求愛ダンス。
12月1日	<b>ピューマ</b>	ピュータ♀ 飲水量多め、上下運動が困難になってきたためオオカミの部屋に移動。
12月3日	<b>ミーアキャット</b> <b>ゾウ</b>	川原♀ 一頭腹部膨らんできている。 だいすけ♀ 左脇腹のイボが破けたようになっていた。左後肢が外側に湾曲。
12月8日	<b>ピューマ</b>	ピュータ♀ 朝から室内で横になり痙攣。終日治療実施。
12月13日	<b>ツキノワグマ</b>	糞♂ 昨日の餌ほとんど食べていない。
12月18日	<b>オオバタン</b> <b>キリン</b>	おかあさんと思われる個体が卵を産み落としていた(破卵)。 リンリン♀ 発情回帰の可能性。
12月21日	<b>ニホンイヌワシ</b> <b>キリン</b>	第1ペア 擬交尾行動を確認する。
12月24日	<b>ツキノワグマ</b>	カンタ♂ 尾先端部脱落。 親子♀ 冬ごもり開始。

## お客様の声

8月13日

ミルヴェ館が涼しかった。でも自由に使ってよい場所なのかわからなかった。せっかく秋田まで来たので、秋田市内の観光スポットのパンフレットも置いてほしい。また来ます。

9月10日

インコとフクロウのお散歩で、ていねいに説明してもらえて、とっても嬉しかったです!!

9月19日

来るたびにどこかが新しくなっていて、来るたびに新しい発見があっておもしろいです。さよならをする動物がいる時は広報とかでいついなくなるとかわかっていると、最後にもう1回行こうかなってなります。新しくくる動物のお知らせは見た記憶があるのに、いなくなる動物の話がないのはさみしいです。

10月10日

そばを通りかかった時に説明をしてくれてありがとう!!らくだの飼育員さん!!

10月19日

解説などは良い事だと思います。子供向けの解説だけでなく大人向けにふみこんだ解説、飼育の話を知りたいと思います。

11月12日

年間パスポートを毎年購入して、時間があれば遊びに来ています。大変な仕事で忙しいと思いますがこれからもみんなが楽しめる場所として期待しています。

11月15日

いつも動物のことをくわしく教えてくれるので、子どもたちが楽しみにしています。

## 〈かたばた通信〉

休園中の大森山動物園。いつもは賑やかな声が響く園内が閑散とし、動物たちもひっそりと落ち着いていた様子が印象的でした。

鳥インフルエンザ発生後、動物を心配する声だけではなく、動物園への励まし声も多くいただきました。それらは職員力になり、改めてみなさまに支えられ成り立っている動物園なのだと実感できました。

3月から新たなシーズンがスタートし、動物も職員も元気いっぱいみなさまをお迎えします。これからも大森山動物園をよろしく願います! (宇佐美)